

京都の伝統行事

8月末になっても、厳しい暑さが続いています。夏休みが終わり、35日ぶりに学校には生徒の元気な声に戻り、2学期がスタートしました。

お盆には、台風7号が近畿地方を直撃し、各地に大きな被害をもたらしました。そのような中で実施が危ぶまれた五山の送り火も例年通り実施されました。

五山の送り火には、どのような意味があるのでしょうか。起源については、諸説あってはっきりしないようですが、京都では、祇園祭同様に夏を代表する風物詩となっており、8月16日に大文字、松ヶ崎妙法、舟形万灯籠、左大文字、鳥居形松明の5つの山で炎を上げて、死者の魂をあの世へ送り届ける送り火を焚く行事です。午後8時から大文字をスタートに、5つの山で、大文字、妙法、舟形、左大文字、鳥居形の送り火が点火されます。祖霊が戻っていくといわれている黄泉の国は、平安時代には山奥にあると考えられていたそうです。盆地である京都では、山奥にはそれに続く天上があると考えられたからかもしれません。



お盆を過ぎれば、暦の上では季節は秋です。この夏休み、本校は、吹奏楽部の京都府吹奏楽コンクール金賞受賞、水泳部の全国大会出場をはじめとし、どの部活動も各大会やコンクールで大健闘しました。大切なことは、結果がすべてではなく、目標に向かってひたむきに努力した過程が、これからの人生を歩んでいく上で大きな糧になるということです。

9月には、部活動の新人大会、10月に体育祭、11月に文化祭など、学級や学年、学校全体として、みんなで力を出し合って取り組む大きな行事があります。そして、3年生は希望進路の決定という重要な学期となります。

西ノ岡中学校の先輩方から受け継いできた良き伝統を大切にしながら、全校生徒がそれぞれの目標に向かって、学習に、行事に、部活動にと精一杯取り組み、実り豊かな秋にして欲しいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には、2学期も本校の教育活動にご理解、ご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

校長 岡本 英明
学校だより（8・9月号）より